
そうだ、人間になろう！

フィロト・シプレ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そうだ、人間になろう！

【Nコード】

N8501U

【作者名】

フィロト・シプレ

【あらすじ】

1万年前、悪魔の世界である魔宇宙にてカリスマ魔王が居た。強くて賢い魔王シルフィアは1万年の時を超えて悪魔達の心をつかむ。

そんな魔王の1ファン、エミルがファンクラブの会員になるため試練に挑む！

あこがれのシルフィア

あたしたち悪魔が住む世界、魔宇宙。

1万年前、数万の魔王達が2つに別れて戦争したの。

一方は自称人間が伝説魔王達を集めた勢力、もう一方は魔宇宙の汚点ともいえる勢力を結集した勢力、一般悪魔も一般人も同じ方を応援すると思うわ。

人間の方が一緒に居て得しそудもん。

やっぱり自称人間の大勝利なんだけど、未来悪魔のハートをつかんで話さないのが敗軍のボス：シルフィアなの。

シルフィアの目的は汚点を集めて全部消すこと。

そのために自らを犠牲にしてまで汚点となる魔王達を集めて、わざと負けた。

天界の汚点達からものすごい借金をして、一人残らず死んだ。

おかげで天界の汚点達は貧乏になってまじめな天使達に政権を奪われてのたれ死ぬ。おかげで悪魔狩りがなくなって超ラッキー！

そんな偉業を成し遂げた大魔王シルフィアはすごく美人で、ものすごく強い魔王。自称人間は実力で勝った振りして隠居した。

おかげであたしたち未来悪魔はすごい平和を謳歌してるわ。

今日の朝のニュースで「本日、外務大臣が議会中居眠りをしたため辞任を強いられました」と言うぐらい平和な時代、じじいやばあは「こんなの悪魔じゃない！」と言ってる、学校では居眠りしなさいって教わるからね。

あたし、エミルは今日も元気にポスターへ落書き！そして建物に入ったら窓をひっかく！

それもこれもシルフィアのおかげ！

シルフィアが命をかけてやった偉業であたしたちは楽しく暮らしてる！

でも、平和すぎて政府の不正が日常的。マスコミも嫌いな相手ならちいさな事で徹底的に叩く。

居眠りしただけで辞職なんて、ひどいよね。

シルフィアならどうするかなあ？

まずあの手この手でマスコミを従わせるよね。

マスコミを味方に出来たらなんだってできるっっているんな小説に書いてあるし！

マスコミを味方にしたシルフィアは「無駄はすべて排除だ、浮いた分消費税を減らす」とかいうんだ！

消費税なし、ばらまきがなくても裕福に生きていける環境、娯楽規制撤廃、などなど暮らしやすくなること間違いなし！

ああ、シルフィア、シルフィア様。

どうか魔宇宙に返り咲いてください。

そして、あたしに膝枕をしてください。

あたしもせめて見かけぐらいシルフィアみたいになりたいなあ。ってシルフィアみたいな美人になりたいだけなんだからね！

つるぺたとかまな板とか言われたくないだけなんだからねっ！

なんて照れたらつまみ出される喫茶店であたしはコーヒーを飲んでいる。

支離滅裂になっちゃったわね。

ここはシルフィアのファンが集う喫茶レジェンド、日々シルフィアに近づこうとする奴らだけが集まる達人喫茶。

頼むのはもちろんもちろんシルフィアが大好きだったエスプレッソ。ものすごく苦いけど飲めなきゃファンと認められないやつ。

これが好きじゃないとファンではない!! エスプレッソにうるさいファンは多い。ファンクラブ支援喫茶と名乗れるのは最高級のエスプレッソを作るバリスタのみなのだ。

この店のエスプレッソを美味しいといえる味覚が最低条件！

あたしはファン仲間に認めてもらうため、すごくがんばった。

シルフィアを知るまですごく甘党だった。コーヒー1杯に砂糖

もミルクも2杯入れるほど甘党だった。

でも、シルフィアに近づくためにエスプレッソを好きになる努力をした結果普通のブラックコーヒーを飲むのが当たり前まで成長したのです。

すべてはシルフィアに膝枕してもらったため！

そしてシルフィアに近づく第一歩がファンクラブ試験合格！

ファンクラブには一般階級と認可階級と運営階級があつて、あたしは一般階級。一般階級はメールをもらったりグッズの情報が素早く入ったり、ただの客でしかない。

認可階級になるとファンクラブ喫茶で1日1杯エスプレッソをもらえて、シルフィアに近づくシンポジウムに参加できたりする。

シンポジウムはすごく魅力的よ！

ものすごく成果を上げればシルフィアから声がかかるみたい！ときどきシルフィアとの取引を始めましたって記事を見るとうらやましくなる！

そして声がかかるほどできる女はみんなこのシンポジウムに参加してるんだから！

運営階級になると、シルフィアの名前を使って商売できるようになる。

まずは認可階級、言い換えて一人前から！

1年前、あたしはできる女になるため試験を受けた。そう、何も準備をしないで受けた……

試験題1問目はエスプレッソ！

いろんな意味で思い出に残る1問目！

最初の試練

このエスプレッソを飲んで心の底からおいしさを表現せねばならないの！

でもこの頃のあたしはすごく甘党……

首から下は人間、頭はサングラスかけたタコのマスターは腕を組んでこちらを見ている。8本の触手はすべて組み合せて、5組の腕を組ませてる。

そして、サングラスが光ってて怖い。

これ、ごまかせない……

恐怖を感じながらコップを持って、鼻に近づけると少し冷静になった。これならいけるかも！

と思つて一口飲んだ瞬間、「にがっ！」と涙目で言っちゃった。

そしてタコは一言、「お代はこれな」とレシートを置いて仕事に戻った。触手を駆使して5人分の仕事をしてる。

レシートを渡される「不合格、そんなの嫌だ！

おもいつきり机を叩いてマスターを振り向かせる！

負けない！ 負けないんだから！

「まだよ！ もう1回！」

「嬢ちゃんにはまだ早い」

まだおわってない！

絶対に負けない！

鼻をつまんでエスプレッソ一気飲みだ！

机からコップをひったくって、疲れた奴が水を飲むみたいにかぶ飲み！

うぐっ、にがい！ 死ぬほど苦い！

熱い！ やけどする！

でもがんばって飲んだよ！

「嬢ちゃん……」

マスターようやくこつちを見た、これで熱意を伝えれば……

あれ、体がおも……

「うぐっ！ おなか痛い……」

「んな飲み方したら胃に穴が開くぜ？ 救急車呼んどくからそこで休んでな」

うう……、おなか痛い。

シルフィアはこんな強烈なものを飲み続けてるんだ……

1年前のあたしはこうして病院送りになり、レジエンドに行くのも怖くなった。

結局急性カフェイン中毒になっただけですぐ治ったけど迷惑かけちゃったしおなか痛かった。

マスター怒ってるかな。

病院からガキどもが遊んでるのを見ても気が晴れない。

このあたしが、こんな事で挫折するとは……

パソコンに集めておいたシルフィアの演説を見てるおかげでなんとか泣き出さないですんだけど、ちょっと調子悪い。

いっぱいカフェモ力を飲むと、ファンクラブからメール着信。怒ってるかな？

メーラーを起動させる手は震えていた、でも起動させなきゃ何にも出来ない。

チョコチップを食べて気持ちを抑える。

恐怖におびえていたあたしはメールを見た瞬間泣いちゃった。

”エミル様、最近いかがお過ごしでしょうか？

お体は回復されましたでしょうか？

不慣れな人が無理した事による急性カフェイン中毒はごく日常的に起こります。

もしそのことを心配されてるなら大丈夫ですよ。

過ぎちゃったことはしゃーないのです。

そんなつまらないことで悩むより、ファンクラブに通ってシルフ

イーア様の血肉になつてくれなさい”

そうよね！　過ぎちゃったことはしゃーないよね！

でも、救急車で運ばれるぐらいの状態だったのにぜんぜん気にかけてない！

神、もとい調停者はあたしを見守ってくれている！

がんばる！

がんばるよ！

スキップしてレジェンドにむかうと、大都市の中に渋い小屋があった。中に入るとタコのマスターがコップを拭きながら触手で仕事してる。

そんなマスターの目の前で気をつけ！

「マスター、この前はわ、悪かったわね！」

「いいってことよ、初めての奴はだいたい苦くて飲めないんだ」

平然と言つてのけた、タコでサングラスなのに笑顔な気がする。

本当にいつもの事みたい。

いつも通り仕事してる雰囲気は何とも安心させてくれる。

でも、このタコのおっさんがあの誠実そうなメールを？　なんだ

か”　よー、嬢ちゃん。んなちうちええこと気にするなよ！　ちつち

ええのは体だけで十分だろ（笑）”

なんて送つてきそうなイメージだけど。

なんだか腹が立つてきた。

「何怒ってるんだ？」

「ああ、いやいや、なんでもないの！」

いけないいけない！

被害妄想丸出しながら悪魔のすることじゃないよ！　しっかりし

なさい、あたし！

マスターが今度はウィングラスを拭き始めた。

「シルフィーア様の名言で『根性があれば部下にする、鍛えれば使い物になるからな』ってのがある。嬢ちゃんのことじゃないか？」

な、シルフィーアはあたしのために！

なんと、なんと素晴らしい！

あたしは立ち上がって手を組んでしまった、シスターみたいに。

「天におわすシルフィア様！ 末端の悪魔にありがたきお言葉を！」

「ばかやろ！ 悪魔が天を崇めるな！」

によわ！ マスターが怒ってグラスを投げた！

おっさん達は天を嫌ってるんだっただけ。

「ごめん、つい」

ウィンクして舌出したら割れたグラスが消滅した。そんな状態でまったく騒ぎにならないって妖精に言ったら驚いてた。

悪魔も努力するの！

マスターは仕事を再開、マスターが水を置いた席に座ってメニュー表を見る。

メニューには”一般向け”と”一人前向け”の2種類がある。一般向けは誰でも食べられるんだけど、一人前向けは味が濃すぎて悪魔を選ぶ。

シルフィアとはにかく濃い味が好きだったみたい。肉体労働者は濃い味が好きって言うけど、魔王って肉体労働だっけ？ ああ、勇者と戦わないといけないもんね。

そんなシルフィアに近づきたい、近づきたいけど。この前の醜態をさらしたくない。

でも、一人前になりたい！

むむう、どうしよう……

悩んでると隣に誰か座った、なんだか香水の香りがする。

「よお、いらつしゃい」

「マスター、エスプレッソ一杯」

「はいよ！」

隣に来たのは緑色の人間、金のロングヘアでキャリアウーマン風女だ。魔界に行商に来た妖精みたい。

いきなりウインクしてきた！

「お嬢ちゃん、どうしたの？ 悩み事？」

「うつさい！ それにあたしはお嬢ちゃんじゃない！」

と思って見た女はあたしより頭はぶんぐらい大きい、座高だけで。

悔しくなつてメニューを見る、一般向けを。

「マスター、ミルクジェラートも！」

「はいよ！」

お、一般向け頼んでる。

って、さつきエスプレッソ頼んでたわよね！

「それ、あたしへの当てつけ？」

「あらあら、すねちゃダメよ。お嬢ちゃんのこと大好きなのに」
いきなり何よ！

ってこら！抱きつかないで！

的確に口を押さえられて息が出来ない！

くー、胸でかいのがこんな凶器とは！

羽で押してもびくもしない、このままだと……

だれか、誰か助け、て……

息が、意識が……

ああ、お花畑が見えた。なぜか天使に止められてるけどなにかに
お花畑へ押されてる……

シルフィアのおかげで戦争することのなくなった天使、困った

悪魔でも助けてくれるかなあ……

「エスプレッソ入ったぞ」

「ありがと、マスター」

女はあたしから離れてエスプレッソをかぎ始めた。

助かった……

背もたれに寄っかかって生還の喜びを味わって大きく深呼吸。

「うーん、おいしい」

「『うーん、おいしい』じゃない！あたしは死にかけたのよ！」

「えー、根性なしー」

「な、なんですって！」

っーか根性なしってどういうことよ！

もう、妖精の考えることはよく解らないわ。

とりあえず落ち着こう、落ち着くのよ、あたし。

まず、シルフィアを思い浮かべる。

そして、シルフィアがやさしく「落ち着け」って言ってるのを
想像する。一見褐色の人間、かっこいい美人が私を膝枕してなでて
くれてる光景。

ああ、いい。

なんだか本当に抱きしめられてなでられてるみたい……

目を開くと少し角度がおかしい。

肩に手が回ってて、頭がなでられてる。

さっきの女だ、でも気持ちいいからこのままにしておこう。

だけどその手が胸に来たので押しとばす！

「なにするのよ！」

「ちよつと膨らんでるのねー」

「う、うつさい！」

セクハラかい！

まったく、妖精は軽すぎるわよ。

「お嬢ちゃんはウィンナーコーヒーなのね。ということはこれから修行かしら？」

「そ、そうよ！」

でもいきなりエスプレッソなんて無理よ。

比較的大丈夫そうなもの、大丈夫そうなもの。

シルフィアは基本的に濃い味が好きだから……

辛いとか苦いとか、どうすれば……

そうだ！

「マスター！ 激辛麻婆にご飯5杯！」

「ほう、修行か。じゃあもつと良い方法がこれに書いてあるぜ」

さっすがマスター、よく解ってる！

って見せてくれたのは濃い味が好きになるためのパンフレット。

褐色のメイドが濃い味に馴染むためのダイジェストが書いてある。

タイトルは”シルフィア様に近づく塾（味覚）”って書いてあって、サブタイトルは魔宇宙一の激務は食事から支えている。

1ページ目はあまりの苦さに涙目のメイド、仕事に集中できた時間は6時間。最後はものすごく優雅にエスプレッソを飲んでて、稼働時間12時間。

シルフィアと同じものを食べる修行の他にストレッチもやり続

けて1年、メイドはここまで成長しましたって事みたい。

すごい！　すごいよシルフィーア効果！

「マスター！　あたしも！」

あたしもできるのよね！

激苦のエスプレッソを飲んだこの女も出来たんだし、出来るわよね！

「すっごーい値段だから、本気出さなきゃダメだぞ？」

妖精がウインクしてる、こいつもこの授業受けたのだろうか。こいつには絶対負けたくない！

「うん！　超がんばる！」

「よく言ったね！　私は妖精商人のレレン、レジェンドも貴重な顧客なのよ」

「あら、じゃあ店員みたいなもんね」

店員なら客であるあたしに逆らえないはず。

「なにその嫌らしい笑いはー。私の愛で本物の笑顔に変えてあげるわ」

「わ、ちよつと！　んぐ、んぐぐぐぐ！」

く、くるしい！　息が出来ない！

また天使が見えてきて……

「ミルクジェラートいっちょあがり！」

「ありがと、マスター」

再びマスターに助けられた。

あたしが書類に書き込みを終えてマスターに渡すとレレンがすごい幸せそうな顔でジェラートを食べてる。

「エミルちゃん、あーん」

「ば、ばかつ！　恥ずかしいじゃない！」

って言うか書類覗かないでよ！

悪魔が妖精に遊ばれる時代になったのね……

これもシルフィーアみたいになれば解決できるわ！

がんばるわよ、あたし！

シルフィアの生まれ変わり？

こうしてあたしは自己啓発として食事をシルフィアに近づけていった。

少しずつ味を変えて行きなさいって言う穏便なものから、ものすごく美味しそうに濃い味の食べてるのを見まくりなさいってものまでいろいろある。

レレンが美味しそうに食べてる激辛焼き鳥、実物を食べると口から日が出ちゃう。マスターも心得てるみたいで見た目だけ同じ焼き鳥をもらって慣れていった。

マスターの指導とレレンのいじりで簡単に成長できた。

「成長したわねー。体は成長させちゃダメよ」

「うるさいー！」

まったく、妖精って奴は。

「かーわいい、怒った振りしてても笑ってるところが何とも」

「わらってなーい！」

あたしがいくら否定しても二人に笑われるだけだった。

これはこれで結構楽しかったけど、いくつか駄目なところがあった。

まずは”食べる前には手を洗いなさい”という部分。

「マスター！ 悪魔はトイレでも手を洗わないのがお手本なんだよ！ 大人なんだからわかるでしょ！」

「そこらに転がってる下品な悪魔をまねするな！ 激務に耐えるには清潔にした方が良さんだよ！ シルフィア様はそうされた！」
うう！？

シルフィアが！

悪魔の常識を打ち砕いてまで激務に耐える体を作ってたんだ！
わ、あたしの負けだよ……

「そうよ、あなたをなでたこの手は綺麗なんだから」

「そうなの、あんた妖精だもんね」

レレンはあたしのほつぺをぷにぷにして喜んでる、それにしても悪魔の常識とも戦わないといけないなんて……

思ってみれば洗面所が通常の5倍広いわね。

授業を受けて以来、シルフィアのストイックさに泣くのは日常的だった。

食事の前に手を洗わないといけない、夜更かしは絶対禁止、朝食はいっぱい食べる、仕事で絶対に寝ない、多くのことが転がってる下品な悪魔には絶対出来ないこと。魔王でも出来ない奴は多い。

でもがんばった！

シルフィアに膝枕をしてもらう第1弾、ファンクラブ入会してシンポジウムに参加するために！

こんな苦行をしていくとだんだんシルフィアの味にも慣れてきた。といっても中辛のカレーライスを食べれるぐらい。

2倍カレーになるとまだ耐えてる気分。

いくらできる女になりたいからって、悪魔がここまでがんばるのはおかしい？

そんなことない！

だって！

だってだって！

一人前って認められたらシルフィアの演説が聴けるんだよ！
どんなつらいことがあっても私を助けてくれた演説！

苦行の最中も私を鼓舞してくれた演説！

シルフィアの生まれ変わりが、わざわざあたしたちのために録画してくれてるんだよ！

シルフィアだった頃の演説はネットで流れてるからいつでも聴けるけど、生まれ変わりの超激レアなんだよ！

その激レア演説を、がんばったご褒美に聞く！

演説を通して先輩達との絆を作る！

最初の1週間はコーヒーの砂糖とミルクを半分にしたらだけで違和

感を感じた。

毎朝5時に起きてコーヒーとバナナ、空中ジョギングをしてから朝ご飯をいっぱい食べる。

すごく大変！

なんどもなんどもシルフィアに謝って二度寝した。

でも、演説を聴いたらそんなことしてる場合じゃないのがわかった！

シルフィアの演説を聴いたあと、レジェンドに行ったときだった。

「嬢ちゃん、知ってるか？ シルフィア様の生まれ変わりの話」

「え？ なにそれ？」

生まれ変わり？

んなの居たらニュースになるはずだけど、ガセじゃない？

「その顔は信じてねーな。忘れてくれ」

「な！ そんな言い方されたら気になるじゃない！」

しかも親父、煙草吸いやがった！

タコ頭に人間の体が妙にダンディー、ってちがーう！

「どうしてもっていうなら教えてやらんでもないが」

「いくら出せば良いのよ」

頭下げるって行ってるのはわかるけど、悪魔として絶対やだ！

しかもあたしからはなれてなにか別の仕事を始めようとしてる、

くやしいわね！

「話す気なくした、ゆつくりしていつてくれ」

「だー！ 悪かったわよ！ 聞かせて！ 聞かせてください！」

「最初からそう言えば良いんだよ」

うう、タコに負けた。

って、なんだか甘くて良い香りが…… いつの間にかカフェオレ

入れてたのね。

「泣きそうな顔するなって、これでも飲んで落ち着け」

「あの、お金そんな持ってきてないわよ」

「授業料に含まれてる」

まったくこの親父は！

って言おうとしたけど、シルフィアのことばを思い出してやめた。「悔しいが、頭を下げねばならんと気が多々ある。もちろん操るためにな」と。

悪魔の鑑に思いをさせてカフェオレを飲むと笑顔が出てくる。良
いカフェオレね。

「落ち着いたようだな、じゃあよく聞いておけ」

「うん」

もうひとくちカフェオレを飲む、そうじゃないとつかみかかった
やいそうだったから。

「シルフィア様は今、人間界で力を蓄えておられる。俺たちとも
つながりがあるぞ、入会した奴全員にメッセージをくださるんだか
ら」

「な、なんですってー！ それ、本当なの！？」

「ああ、合格すればわかる」

あの、シルフィアからあたしへメッセージ！？

メンバーは100京だし隠しきるのは無理よね。でも何で一般公
開されてないのかしら？

「その顔は何で一般に知られてないのか？ って顔だな」

「な、なんでわかつちゃうのよ！」

この親父、やり手ね……

カフェオレもはんぶんになっちゃった。

「ブームになっちゃったらにわかファンが増えちゃうじゃないか」

「ああ、なるほどー」

それで公開しないことが暗黙の了解なのね。

手に汗が出てきた、魔宇宙では激レアなおしぼりを使って手を拭
く。つまり、あたしのために演説してくれるのよね。

「そうだ、おっちゃんのハートも小娘のハートも均等に奪っていく
ぞ」

「ヘンな言い方やめなさいよ！」

う、目の前でくねくねし始めた。タコの部分は普通なんだけど、首から下がきもい。ムキムキの体がくねくねしてる。

でも、このおっさんがこんなくねくねするほどって事は、本物のよね。運営だから嘘なんて見極めるだろうし、なによりクオリティーが高い証明じゃない！

絶対見てやるわ！

そして、強くて賢くて、何よりできる女になってやるんだから！
まずはマスターに仕返し！

「たこ焼き1セットちょうだい！」

「はいよ！」

マスターははさみを取り出して触手を切り始めた！

10切れの新鮮なタコを落とすと触手が再生…… ちよっとまって、これを客に出すの？ 生地に包み始めたし！

「まった！ あたしが悪かったわ！ マスターなんて食べないから！」

「しゃーねえ、まかないに出すか」

と言いつつ焼き始めてる。

悔しいことにすごく美味しそうな香りがするんだけど……

「マスター、いい話をありがとう。ブラックに挑戦するわ」

「はいよ！」

にがっ！ まだあたしにブラックは早いみたい。

でも、がんばるわ！

そして試験へ

あたしはタコ先生から毎日授業を受けた。

レレンに抱きつかれたときの対策で柔術も習った！

ある1つの点を除いて完璧！　すっかりシルフィアAの生活習慣を手に入れた！

毎朝3時に起きて、濃い味の物をいっぱい食べていっぱい運動！

毎日鰯取り放題の釣り堀で体を鍛えたのさ！　大好きな徹夜ゲームを我慢して日々摂生した、マスターのいじりに耐えながらかわい
い仕返しの研究もした。

シルフィアAについても産まれた時刻からほくろの数まで調べた！
もう超完璧！

予行練習で飲んだブラックコーヒーを苦いって言っちゃったけど
美味しいと大声で言って吹き飛ばす！

不安そうなタコ親父が今、エスプレッソマシンに豆を入れた！

一見簡単そうな作業だけど、温度と湿度で豆の配合を微妙に調整
してマシンに入れる。ここまでこだわるだけでも凄いと思うわ。

もつとすごいのはこのエスプレッソマシンが開店資金の8割を占
めたこと。部品単位でオーダーメイドにしたらこんなにかつちやつ
たみたい。

そんな愛の結晶で挽かれてる豆は真っ黒、ものすごい深入りらし
い。

最近のあたしは大衆喫茶でのブラックコーヒーは飲めるようにな
った。マスターとちがってこだわってないからコクがないけど。

「良い香りね、マスター」

「嬢ちゃん、わかるねえ」

少し前に「嬢ちゃんじゃなくてお姉さんって言いなさい！」って
いったら「見た目ガキじゃないか」と突っ込まれた！

今日の朝、親に「金のツインテールとデニムのつなぎにしたら大

人と認めてやる」なんて言ってたから実行したら「完璧な口リっ子」と言われてちよつと不機嫌。大金はたいて用意したのに。

そんな不機嫌は演説と聞いた瞬間消えた、あたしはもう大丈夫だ！触手で機械を操作して、首からしたの人間っぽい部分では料理を作ってる。仕事が早くて料理上手なマスターにはいつも注文が殺到する。

そしてあんまり悪い客が居ると墨を飛ばす。タコならではの仕事ぶりはレジェンドね。

1年間同じ光景を見続けた。ときどき触手がたこ焼きになってる姿も見た。

マスターはたこ焼きを焼いて、一味唐辛子を赤くなるまでかける。赤いたこ焼きなんてここでしか見ないわ。

さらに辛みソースで強化される。墨のかかったたれは辛くてコクのある香りとして店中に広がる、見るだけで体が温まってきた。新入りの連中はカウンターに行くとき目がひりひりして泣き出す、それぐらい辛い。その辛い空気をコーヒーの香りが吹き飛ばした。雲の中にビームを飛ばすぐらい綺麗に変わった。

最強のエスプレッソが完成したんだ！

目を細めて必死に香りをかぐと、鼻腔を通して幸せがやってくる。マスターはおっさんも少女も均等にハートを奪う演説が聴けると言ってた。これから聞けるのよね。

あたしのハートはもうシルフィアのもの。

「ああ、シルフィア様……」

「シルフィア様の演説、今日聞こうぜ」

そしてマッチョな手がエスプレッソを置いた。

ピンポン球がギリギリはいるぐらい小さいなカップにはんぶん注がれた黒い液体。シルフィアは1時間に1杯飲んでいたいみたい。

普通の悪魔が真似するとおなか壊すけど。

健康上の理由から1日1杯で許されるシルフィア仕様のエスプレッソ。

あたしの鼻にやってくるコーヒーの香りが落ち着き作用をだしてくれる。シルフィアも香りをかいで落ち着かなかったら捨てる、と言っほど重要な要素。

でも、朝はこのブラックコーヒーで苦いって言っちゃった。一般的な喫茶店でもエスプレッソはまだきつい。

まだあたしにこれは飲めないのかなあ……

「不安げだな、俺の腕を信じろ」

「マスター」

格好いい！

タコでサングラスって言うコミカルな外見なのに、ものすごく格好いい！

「あ、そうそう。レレンはパーティー会場行ってるぜ。嬢ちゃんのこと信じてるってさ」

「ありがとう」

いつも絞め技ばっかりされてる気がするけど、良いところで元気をくれるのよね。

なんだかいけそうな気がする。

いけるわ、今なら！

この1年、バリスタから教わった飲み方を始める！

まず、コーヒーカップを鼻によせて揺らす。さっきより香ってきた。

「うーん、良い仕事してるわねえ」

「ありがとよ、嬢ちゃん」

飲む前においしいという既成事実を作る、これもすべて勝利のためめの布石よ！

戦う前から勝つのは基本、あたしも達成した！

だから、飲む前に笑みがこぼれちゃった。

ここでは一人前が誕生するとシルフィアの演説が流れる。あたしたちファンクラブのために録画しておいてくれた演説！

ファンクラブの仲間達が笑って抱き合えるように収録された演説！

一人前の新規会員が誕生したときだけ聞けるこの演説、ヘヴィーなファンたちはこれを見るためだけに居座るほどのクオリティー！

あたしはこれから聞くことになる！
思わず大声だしそうになって深呼吸、まずはエスプレッソをたのしまない！

エスプレッソを本気でたのしんだとき、あたしはシルフィアと一つになる！

マスターは腕を組んでこちらを見る。サングラスを付けたタコは触手まで組んで挑戦的だ。

口は少し開いた状態で右が上に向かってる。

「今回は自信ありだな」

「当然！ 一人前を証明するよ！」

あたしはカップを持って目をつぶった。思わず満面の笑みで香りをおもいつき吸っちゃう。

少したのしんだあと、エスプレッソに口を付けてずずーっと音を立てながら飲む。コーヒー好き必須の動作よ。

だって、こうすることで口の中に味が広がるもん。

そして一番大切なことは考える必要もなかった。

苦い、苦いけど普通に飲める。熱いのにぜんぜんきつくない。それどころかどこからともなく笑顔になってくる。

自然と体の奥から力がわいてきた、あまりに湧いてきた魔力は震度3の地震を起こすほど！

「あたしの勝ちだー！ー！ー！ー！！！」

何度も何度もカップに口を付ける！

空になったカップを置いた！ 心地良い脱力感を感じて、満面の笑みをマスターにむける。

「合格だ！ エミル、合格！ 一人前が誕生したぞ！」

初めてマスターに名前と呼ばれた！ やったあ！

でも余韻に浸る前にマスターのごつい手が頭に乗った。すごい力ね。

「エミル！ おめでとう！」

「やめろ、なでるな。頭！」

人間っぽい手で乱暴になでてる、力が強くてはがせない。

8本の触手は鐘の大合唱！

そして他の客からも拍手喝采を浴びたあたし！ 嘘じゃないのよね！

「ふふ、ふふふ！」

奥の奥からこみ上げてくる笑い、1年の努力が実ったんだ！

ようやく一人前になった！

ようやくすべて始まったんだ！

ようやくあたしとシルフィアはつながり始めた！

シルフィアに強く肩を叩かれた気がした。

シルフィアのことだからエールを送るとき、口では言わない。

1回叩くのが応援、そういうかつこい悪魔だよ！

ようやくシルフィアに認めてもらったんだ！

1ファンとして、胸を張ってファンとしてシルフィア信仰を公言できる！

明日からシスターの服を着て布教するんだ！

「ふはははは！ やったあ！」

嬉しくて飛び跳ねちゃったあたし。

実年齢500歳なんて関係ない！

見かけ10歳といじられてるんだからいいよね！

そして、シルフィアファンクラブの会員書をもたらした！

黒と黄色席飾られた戦艦のロゴ、そしてシルフィアの写真。

裏にはあたしの顔写真とナンバー100京666番とかいてある！

100京人目からずれちゃったかー、でも666は悪魔にとって名誉の数字！

この日のために買っておいした革の財布に差し込むとキャリアウーマンみたいだ！

できる女感が強くなったぞ！

「ふはははは！ あたしは奇跡を起こしたぞ！」

「おめでとう、嬢ちゃん。会員専用ルームで演説を拝聴できるぞ」

「ありがとう、マスター」

あたしが手で投げキッスをするとマスターは触手で投げキッスを帰してきた。これedyouやくシルフィアについての情報を仕入れられる！

これでようやくシルフィアの演説が聴ける！

両腕を腰にあてて最大限セクシーにあるくあたし、セクシーになりたいと思いながらあるけばいずれシルフィアみたいなダイナマイトボディーになるはずよ！

そうだ、人間になろう！

しかし周囲の反応は、

「ちいさいのにやるなあ」

「かわいい、ロリっ子大賞間違いなしだぜ」

不本意なよろこばれ方をしていた。

見かけ若々しいだけでロリじゃない！

「お嬢ちゃん！ 笑って！」

カメラを向けてきた豚悪魔、中指立てる＋舌に突き出して抗議！

「かわいいブヒ」

あっけなく写真を撮られた。

「やめろ！ この、豚やろう！」

「ブヒー！ もっとー！」

うう、豚なんかに遊ばれてる……

けり飛ばしても喜ばれてる！

マスターが助けてくれなかったらいつまでも豚のおもちゃになっ

てたよ……

押されていくといつの間にか漆黒の扉についた。

木で出来た扉、黒いオーラは結界そのもの。さわった瞬間家でお

片付けとお手伝いがやりなくなる呪いの扉。

会員書だけが解ける呪い。無理に通ろうとするとめっちゃめっちゃま

じめになる呪いの扉。

奥には親衛隊待機所、誰でもわかる言い方だと一人前の会員専用

の部屋がある。

ドアの前には赤い円がある。

円に乗った瞬間、黒いオーラに包まれた！

「うわっ！ なにこれ！？ まさかあたし、呪われちゃうの！ 会

員になったのに天使みたいになっちゃうの！？」

聞いたことある、偽造会員書を持つてくるとお掃除やお片付けど

ころじゃなく、喜んでボランティアするようになるって。

聞いたことある、七三わけのスーツ姿がデフォルトになるって！

「そうだよ、良いボランティアがあるんだ」

「いやああああー！ー！ー！ー！」

って言うか扉がしゃべったー！

「堆肥工場が良いかな？ 黒い羽募金が良いかな？」

「許してー！ こんながんばったのに何で！」

「面白そうだから」

え？ いまなんて？

「俺扉だから動けないだろ、だから新人いびりしかやることなくて」

「趣味悪過ぎよ！」

「へいへい、それじゃ行きましようか」

あ、今度こそいけるのかしら。

「天国への片道切符です！」

「いやあああああ！ー！！！」

あたしの周りは赤黒くなり、周りなんてぜんぜん見えない。

なんとか抵抗しないと！

悪魔として最大限の抵抗をしないと！

羽としっぽをぴんと伸ばして悪さと力をアピール！

「がおー！ー！ー！ー！！！」

必死に魔力を放出して抵抗してたら雰囲気が変わった。急いで魔力を押さえると悪魔立場パーティーしてる。

真っ先に映ったのはレレンの姿。

「エミルちゃん、今日もかわいいーなー！」

光が差してくると近くの客が子犬を見るような目で見てる。

レレン、なんだか目がきらきらしてて怖いんだけど……

「かーわいー、食べさせて！」

「だめ！ 専門のお店行きなさい！」

ってちかよるな！ あんたのベアハッグは本当に窒息するんだから！

「だってー、エミルちゃんみたいなちびっ子いないんだもん」
「ちびっ子言うなー！」

うう、30センチ大きいからって調子に乗るな！
わ、あたしはちっこくないんだから！

心はでつかいんだから！

そんな主張は無視されて頭をベアハッグされた。

今日が一番破壊力がある、扉のせいで疲れてはがせない……

暴れてるのに誰も助けしてくれない、叩いても押してもダメ。柔術もまったく効果ない！

もうダメ、意識が遠くなってきた。

こんなとき、シルフィア様ならどうされますか？

お願い、助けて……

ブラックアウトする寸前、空気が体にしみこんできた！

あたしは今、空気の喜びをかみしめながら絨毯のない大理石に寝そべった。おかげであたしは生への喜びとひんやりとした感触を堪能してる。

「シルフィア様万歳」

床に寝そべりながら主張するあたし、上からフラッシュをたかれただけど気にしない。

「ゆかー、ゆか様ー」

だいぶ床が馴染んできた、

おちついたので周りを見るとレレンがしゃがんでた、しっかりとパンツが見えてる。

「ごめんねー、あんまりにかわいかったから」

「あ、あたしは、ちびじゃない……」

「じゃあ立ち上がった」

とあたしは脇を抱えられて立ち上がった。

レレンが去って行った方向を見ると似たような顔の妖精が5匹も居る。逆らったら確殺ね！

後ずさった瞬間、破裂音！

「うわわっ！」

ついでに後ろからなにか飛んできた！

見ると馬の悪魔がクラッカーをあたしにむけたらしい。

把握した瞬間、部屋中からクラッカーが鳴った！

そしてこっちではさつきよりも大きな拍手喝采！

当然よね、シルフィアアの演説が見れるんだから！

あたしはシルフィアアが見れる、あたしのおかげでみんなシルフィアアが見れる。

「みんな、あたしに感謝するのよ！ はーはっは！」

「よ！ えらいぞ！ ロリっ子！」

「だからロリじゃなーい！」

レレンにつられて他の奴らまでロリロリ言いだした！
くうー！

「今に見てる！ すぐにシルフィア様みたいなダイナマイトボデーになるんだからな！」

「えー、もったいない」

レレン！ もったいないとか言うな！

ひよろひよろで一般的な体格のくせに、あたしの体に指図するな！
睨んでもぜんぜん引かないし。

「もう一回、抱きしめちゃって良い？」

「ひえっ！ ごめんなさい！ もうゆるして！」

うぐっ、なさけない。悪魔が妖精なんかにびびるなんて。

近くのタキシードなおっさんがなにかボタンを押す。

「しっかりしろ！ それでもシルフィア軍の一員か！」

大声がした方を見るとシルフィアアがモニタの中からこっちみてる。

髪と肌の色から生まれ変わりが言ったみたい。

あたしのために、あたしがこうなると知っていて録音されたのだろっか……

「ああ、人間界におわすシルフィア様。弱きあたしをお許しくだ

さい」

モニタにむかって多々膝をつき、手を組む。

「お嬢様、それでは天使ですよ」

「うわわっ！　ち、ちがう！　い、今のは！」

ふえーん、遊ばれてるよー！

目から悔しい汁が湧いてきた。汁を手で拭くとシツクなハンカチを渡される。渡し主を見ると若い執事風の男だ。声の主もこの男みたい。

涙を拭いて男を見ると恭しくお辞儀してきた。めっちゃめっちゃイケメンだ。シルフィアは毎日こんなイケメンに囲まれたのだろうか？　やさしげに微笑むとあたしの手にキスをした！

「お待ちしておりました、お嬢様。こちらに席を用意してあります」
あたしより50センチも大きい執事の後ろを歩いて行き、待機所の中身を見える。

像が乗つかれるほどでかい丸テーブルを偉そうな格好した連中が囲んでる。男はタキシード、女はドレス。

よく思い出してみるとレレンも馬も例外じゃない。

あたしだけデニムのつなぎにTシャツでういてるじゃない。
くー！

貴族の中に平民の子供が入っていったようなこの感覚！

あのタコ！　この事しつかり言いなさいよね！

「お嬢様、どうされました？」

「え、あ。なんでもないのよ！　あはは、じゃない。おほほほほ！」

執事は笑顔のまま汗を垂らした、むむう。

他の客の接客も執事とメイドが接客をがんばってる。

執事もメイドもシルフィアが魔宇宙に来たらおもてなしをする訓練、と言っことで働いてる。当然あたしたちにもシルフィアと同じ待遇。

もう少ししたらあたしはシルフィアの膝の上で寝る！

あたしはシルフィアの腹心になる！

だから執事やメイドについて研究することにした。

この人たち、客が1人来ると分身してる！？ 1人で10の体なんて当たり前！？

1つ1つの体が1人の客にへばりついてのお世話、あたしのイケメン執事も体1つをあたしへの接客専用にしてる。

新人専用と書かれた木製王座に案内された。王座の前には巨大なデスク、すごいよ。

王座もデスクも木製だけどドラゴン模様がこまかく彫られててセレブな感じがする！

どっちも漆黑、魔王らしい色だよ！

ふふふ、魔王になった気分！

重厚だけどふかふかな王座に腰掛けて天国を味わうあたし、執事がデスクの前に来た。

「お嬢様、記念に写真を1枚いかがですか？」

「おお！ まってました！」

シルフィアファンが一生に1枚だけ無料で撮れる写真！ 一人前だからようやく撮れる写真。

あたしは背筋を伸ばしてゆったり座り、足を肩幅に広げた。シルフィアは体調管理を徹底する人だから足なんて絶対組まない。おかげで骨盤美女って話よ。

あたしも健康的な座り方を心がけ、笑顔になった。

ちよつと背中を後ろに倒し、手は腹の上で組む。

こうすることで貫禄が増すのだ！

目を細めて口を右につり上げれば完璧！

右の親指と人差し指で輪っかを作ってOKのサインするとすぐに戻す。

執事がボタンを押すと後ろに垂れ幕が降りてきた！

「とりますよ、笑ってください」

もう笑ってます！

と思った瞬間フラッシュ来たー！

これであたしはシルフィアに一步近づいた！
早速執事が現像し、あたしが受取る。

よしよし、重厚なデスクに王座、紫の垂れ幕は完璧！
でも……

「むすっー」

と言いたくなるあたしの姿。

10歳ぐらいの子供がかっこつけて座ってるようにしかみえない。
あたしは500歳よ！

くそー！ こんなガキじゃないんだから！
でもこんな事でめげちゃダメ！

ここで勉強すればすぐにダイナマイトボディーになれるはず！
シルフィアもあたしみたいな体格の時期があった、それを努力
で克服したのよ！

シルフィアのことだから必死に考え、実験して、正解を見つけ
てから努力したはず！

あたしだって出来るのよ！

そして、シルフィアの演説が聴けるのよ！

この場の全員がわくわくドキドキしながらモニタを見る。
びーっといかにも映画が始まる的音のあと、部屋が暗くなった。
目の前のスクリーンが光り出し、筆で書いたような文字がでてき
た。

” おめでとう、エミル。貴様の入隊を歓迎する ”

この男らしい文字はシルフィアのだ！

そして、壇上に立ったシルフィア（生まれ変わり）はがっしり
とマイクをつかんだ。

ロック歌手ぐらい激しくつかんだ！

「よくがんばったな。私は貴様を、エミルを歓迎する」

はい！ ボス！

シルフィアのちからづよい笑顔を見てあたしは魂を売る。

「貴様はこの1年、必死にがんばり続けていた。私はいつも聞いて

いたぞ」

おお！ シルフィア様がみてくださってる！

「私のためと言い、悪魔の常識を打ち破って戦う姿。習慣や好みを
買えてまでがんばる姿、私はいつも聞いていたぞ」

おお！ そんなことまで！

「少女のような見かけであっても強いハートを持って戦う姿、私は
いつも聞いていたぞ」

あたしの姿まで知ってる！　すごい！　すごすぎる！

「同志達の協力を得て、つき会いながら笑っていた姿。私はいつ
も聞いていたぞ」

そこまで聞いてらした！　すごいよタコ親父！

「貴様のおかげで私はすごい力をもらった。私も、仲間達も貴様を
歓迎しよう」

おお！　やったあ！

ありがとうございます！

あたしはこれでシルフィアの部下になったんだ！

「今後も貴様の活躍を、私に聞かせてくれ」

ああ、シルフィア様。

がんばります！

超必死にがんばります！　何が何でも活躍します！

「超活躍します！！！！！！」

映像がおわると大きな歓声が上がった。隣にいた執事はビールピ
ンを開けて私にかけてきた！　周りでもビールかけが始まり、あた
しはビールの洪水に飲まる！

嬉しいけど苦しい！

デニムのつなぎが黄色になっちゃう！　ちょっ、たかかったのに
！。

ちょ、口にビンをつっ込まないで！

いつの間にか抱きつかないで、レレン！　ビンが抜けた瞬間セク
ハラしないで！

「うわー、エミルちゃんびしょびしょー」

「あたりまえでしょ！ ビールかけられたんだから！」

「かーわいいー」

わーやめてー！

せっかく一人前になったのに窒息死させないで！

と思ったら後ろからそつと抱きついてるだけだった。

「おめでとう」

「あ、ありがとう」

肝心なところでうまいわね、この妖精は。レレンと仲良くビールをかけられてるうち、ビールがくるぶしにつくぐらいまで消費されちゃった。

恐ろしい量のビールも会場の魔法一つで消滅した。

あたしもレレンも普段通り乾いている。

「エミルちゃん、本当におめでとう」

「うん、いろいろありがとう」

1年間本当にがんばったわ、ようやく始まりなんだけどね。

ということ次を考えないと！！

あたしはシルフィア様のために活躍する方法を考えないと！

どうする？ どうすれば活躍できる？

「考え事の際はエスプレッソをどうぞ」

「ありがとう！」

タコのマスターが入れてくれたエスプレッソを執事が運んでくれた。カップを寄せて香りをかぐ。そしてずずーって飲む。

美味しい。

美味しいだけじゃない、すっきりする。

もしかしてひらめいた？

シルフィアにみてもらいたいならシルフィアの側に行くこと。

側に行くには当然人間界へ。

人間界でファンクラブとつながりながら仕事するためには貴重な就職口を確保。そのためにはめっちゃめっちゃ鍛える必要がある。

鍛えて鍛えて、人間界へ！

決まったわ！

そう、そうよ！

目の前のポスターでに書いてある”そうだ、エスプレッソを飲もう！”を見たら口が我慢できなくなった！

「そうだ、人間になろう！」

人間界に行つてシルフィアの近くで勉強しまくれば、シルフィアのそばで活躍ができる！

ファンクラブで死ぬほど勉強したら人間界への就職口が見つかるはず！

そうよ、あたし。

人間界で大活躍して、シルフィアの腹心になって、シルフィアの膝枕で寝るのよ！

賢いわ、あたし！ いえい！

早速勉強よ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8501u/>

そうだ、人間になろう！

2011年7月14日03時18分発行